

静岡商工会議所、静岡国際貿易経済協議会 東南アジア産業経済事情視察会開催



静岡商工会議所では、静岡国際貿易経済協議会と共催し、11月15日〜20日の6日間、ASEAN加盟国の中で、1人当たりのGNI上位3カ国の「マレーシア、ブルネイ、シンガポール」への産業経済事情視察研修会を、総勢12名参加のもと開催しました。

マレーシアでは、クアラルンプール市内を中心に視察研修をおこない、JETROクアラルンプール事務所、JICAマレーシア事務所に訪問し、現地の経済・産業状況、日系企業の進出状況や動向について話を伺いました。現



JETROクアラルンプール事務所より、説明を受ける

在マレーシアでは、経済成長率4%台を推移、1人当たりの名目GDPも1万ドルを超え、国家目標として、2020年の先進国入りを目指しています。企業進出については、製造業などで一

部を除き、100%外資が認められている。ただ国内では労働力不足による人件費上昇が課題となっており、1500社程ある日系企業は、マレーシア国民からの人気もそう高くなく、労働者の確保に苦慮しているとのこと。

ビーチや高原などリゾートも多いマレーシアは、日本からも人気が高く、条件を満たし、マレーシア・マイセカンドホームプログラム(MM2H)によってビザを取得することで、10年間のロングステイが可能となっている。MM2Hプログラムの国別承認件数でも、日本は中国に次いで2番目に多い。在留邦人数も2万2千人以上を数えている。

ブルネイ・ダルサラーム国では、豊富なエネルギー資源により、産業の中心となっている石油、天然ガスの油田とその関



ブルネイ沖合の天然ガス田

連施設、ブルネイの伝統的な住宅地区であるブルネイ川水上集落を視察見学しました。



ブルネイの水上集落の小学校



ブルネイ川の水上集落

3カ国目のシンガポールでは、港湾と流通をテーマに視察しました。特にシンガポール港では、日本郵船(株)とシンガポール

港湾局のスタッフから説明をいただきました。

シンガポール港は、コンテナ取扱量は約3,000万TEU



PSAビルよりシンガポール港湾施設を望む

で、上海に次いで世界2位となっており、特徴は全世界の中継コンテナを取り扱う国際的なハブ港であること。また、統合したITシステムを採用し、短時間での通関手続きが可能となっている。

今回特別に、実際にコンテナターミナルを視察しましたが、高く積み上げられたコンテナの山と、ガントリークレーンの数には参加者一同驚きました。

また、そのターミナルの移転計画も現在進められており、将来的には島西部のトウアス地区に集中する計画だそうです。

4日間で3カ国を巡るハードなスケジュールでしたが、大変有意義な視察研修会となりました。



シンガポール港コンテナターミナル



PSAビルより、スタッフから港湾の説明を受ける